



全日本学生ボードセイリング選手権'97

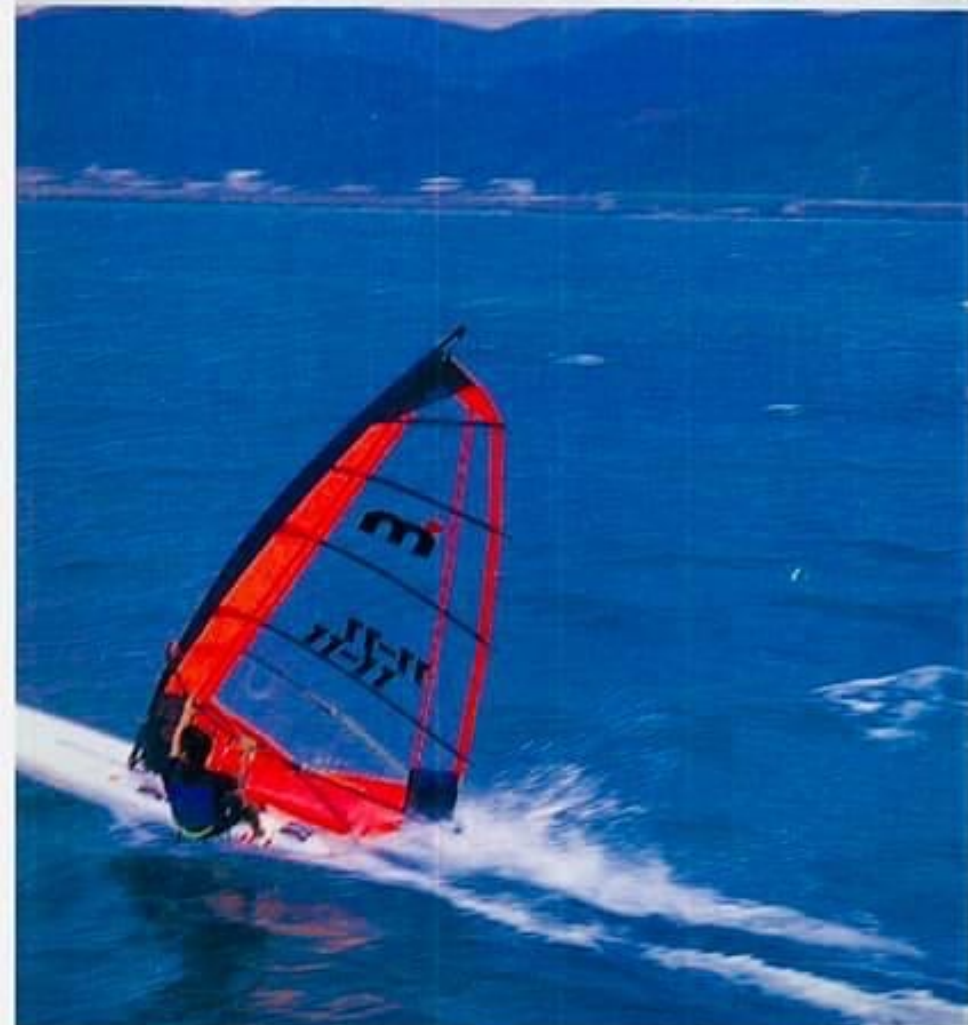
シドニーは俺たちの手で!!

これまで多数の国内トップレーサーを輩出する母体になってきた学連、今年もその頂点を決める伝統の1戦、インカレが沖縄、オクマビーチに全国の予選を勝ち抜いた130名のニューエイジレーサーたちを集めて行われた。MAX 15m/sの強風が吹く中9Rが成立。学生No.1、そして次のオリンピック候補は…。



自分たちの大学の名誉をかけて、はたまた自分の栄光を勝ち取るために……。全国の激しい予選を通過し、誰もが学生日本一の座を夢見て、温かな太陽と真っ青な海、我々学連セイラーには願ってもない気候に恵まれる沖縄のオクマに結集した。今年の各支部での予選の上位メンバーは関東学院、関西支部では同志社、京大の活躍が目立った。これらの大学を軸に、シード選手のNT4年生を中心とした優勝争いが予想された。だが今年の大会は最後まで優勝の行方が分からないエキサイティングな展開になった。

レポート＝高宮大輔(明大)



大会初日、朝からさわやかな好天に恵まれた。ビーチでの熱気は最高潮に達し、Z旗の瞬間選手たちの気合は爆発する。タリーを持って海上へ……。周りは全て敵になり各々のテンションはセイルへ全て注ぎ込まれる。「俺が日本一だ!」誰もが心の中で雄叫びを上げて、第1レースのスタートホーンが鳴った。下有利の大混戦から、ポートで抜群の飛び出しを見せ、右海面を使った明治NTキラー(高橋)賢治がダントツで1上を回航。2位以下を大きく引き離して、2下までトップを守るも、3上で関東学院(大石)リュウターと明治の高宮がすぐ後ろまで接近。3下のランニングでは大デッドヒート。混戦を制したのはリュウター。そして賢治、高宮と続く。ディフェンディングチャンプの木下と昨年3位の安藤という有力選手が、

第1レースからつまづくという波乱の幕開けでレースが始まった。
第2レースもオクマ特有の超フレプレオンショア。誰一人として突然の風のフレに苦しまぬ選手はいないであろう海面に、ただ1人独走する男がいた。その名は日本福祉大の森本。2位以下がダング状態で大タックキング大会を行う中、はるか彼方で赤旗のトップ。2位には絶対調男、賢治がまくって入り、初日2レース終えて1位。しかし2-4位にはNT4年生が彼にピタリとつき2日目に突入した。さあ男になれるか賢治//

優勝争い (2レース終了時)

1	高橋 賢治 (明治大)	4.0pt
2	大石 隆太郎 (関東学院大)	8.7pt
3	高宮 大輔 (明治大)	7.0pt

2nd DAY
①-③ Race
MAX15%のフルプレニング/ 実力者だけが残るサバイバルレースに。
大石(関東学院)vs木下(明大)、優勝争いはこの2人に絞られた。

2日目は怪しい空模様と共に海には白い口が点々と開いている。来た/真の日本一を決めるにふさわしいプレニングレース。第3レースはジャストの風。スタート後、上が伸びて1上を制したのは、京大の負けず嫌い強風セイラーの横矢。そしてリュウター、甲南大の石橋ら4年生が中心となってレースが展開。この風ではやはり4年生が軸差まで通り、リュウターが2本目のトップ。

風はみるみる上がり、リーチを落とす者もでてきた。各選手のノリは熱くたぎりだしスタートラインも怒りが飛び交いまくる。そんな中、第4レースのフルプレニングレースを制したのは、NTキャプテン木下。彼のこの風での上り角度は他の何者もかなわない。独走である。

続く第5、6レースもジャストやオーバーの風域だったが、木下を誰も止めることができない。下からスタートして奥でポートに返した彼の前には何も通

るものはない。3連続トップである。多くの上りのセイラーが上マークを目指すが、忽然とフルプレニングしていく木下。カッコいい。しかしリュウターもしぶとく2位でまとめて総合トップを守った。

強風の2日目で優勝はこの2人に絞られた。賢治はこの日ポイントを大きく落とし、代わって関西から同志社の奥田がシングルで上位をまとめて3位に急浮上。根性のフリーの航速は抜群な3年生である。4位には、ここにきて調子を取り戻したオールラウンダー安藤が僅差でつき、5位に高宮と続く。熾烈な優勝争いはやはりNT4年生を中心にファイナルへと向かう。

優勝争い (6レース終了時)

1	大石 隆太郎 (関東学院大)	7.4pt
2	木下 賢 (明治大)	10.1pt
3	奥田 肇一 (同志社大)	30.0pt



3rd DAY
①-③ Race
3対1で封じ込め/包囲網作戦で明大最強トリオが
猛チャージ。ついにエース、木下(明治)がトップ奪取!

最終日のオクマはゴキゲンほどに快晴。風はサイドからオフショアに変わり、アンダープレニング。この実力が出る風域で王者が決定する。さあ最後の勝負だ/第7レースはこれまでの唯一調子の上がらなかった私(高宮)が、スタート後、1人右海面に向かいタイムリーブローを拍って1上から独走トップ。「俺を忘れんじゃねーぞ!」の気合いの勝利である。2位安藤、3位木下と明大トリオでインカレ、ワン・ツー・スリーも達成した。最高/ここでトップのリュウターが順位を落とし、ついに木下がトップに立つ。

調子をそのままに第8レースも、3上で賢真の上り角度見せてトップに立った木下がトップ。2位安藤、3位大石、4位高宮と完全に4年生に絞られる。特に優勝争いはトップの木下と2位大石の差はわずか2.6ポイント。木下は昨年に続き2連覇か?それとも大石の逆転優勝か?ドラマティックに第9レースへ!

優勝争い (9レース終了時)

1	木下 賢 (明治大)	13.8pt
2	大石 隆太郎 (関東学院大)	16.4pt
3	安藤 大輔 (明治大)	30.0pt

Champion



優勝 大石 隆太郎 (関東学院大)
「とにかく嬉しい!ユニバーシアードの代表に外れたときから、常にこのタイトルしか見えていなかったし、木下をはじめとした明治軍団に負けていけない。大学王者、関東学院のエースとしての責めがあった。そして、たまにはアベック優勝でもしてみようかと思っていたのがよかったのかも……。おい、明治、次は優勝だ!」
優勝とカップは今年も俺らが持つて帰る!最後はオクマよ、風を吹かせてくれてありがとう!



▼3位 安藤大輔 (明治大)
①選手2人どんな風でもOK②木下と高宮③リュウターに負けるなんて、1年の間は想像もしなかったのに...



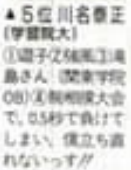
▲4位 高宮大輔 (明治大)
①選手2人で競点は無い!②高宮の貴公子ぶり!リコーが調子いい、俺でそういう風光に生まれたみたい。



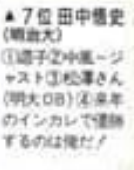
▲2位 木下 賢 (明治大)
①選手2人えられた風を走るだけ②ニコス・カクラマナキス③ヤスコも手加減しろ!でも横矢は手抜き?



▼6位 奥田肇一 (同志社大)
①野郎達2ジャスト②西島さん(明大OB)、今井さん(明大OB)③(安藤)は僕が「虫吠」を聞かせよう!



▲5位 川名 泰正 (伊豆学院大)
①選手2人風②横矢さん(関東学院OB)③朝陽明大会で、0.5秒で負けてしまい、僕立ち直れないっす!



▲7位 田中 哲史 (明治大)
①選手2人中風②ジャスト③松澤さん(明大OB)④去年のインカレで優勝するのは俺だ!



▼8位 高橋賢治 (明治大)
①選手2人中風②高宮さん(甲南大OB)、見城さん(京大)③光栄、こんな順位でこんなさかい!



▲10位 八尋 裕一 (関東学院大)
①練習場の下で俺②高宮さん、高野さん(関東学院OB)③中風では優勝した自分を誇ってあげたい。

Final Race

「ユニバの借りを返す!大石!木下に何としても勝たす!高宮
2人の意地が火花を散らす熾烈なトップ争い。最後に意外な結末が……。

最終レースの1上はこの風では航速が抜けた安藤が1上を制し、明治の田中、私が追走。優勝争いをしていいる木下そして大石の姿は見えない。2上回航後、私は前の2人をバシレトップに立つ。だが3上まで走っ

た時点で振り返ると、すぐ後ろにリュウターが/なんていう根性だ/大まくりである。しかし自分はこので負けるわけにはいかない。ランニングの勝負で押さえて「戦友、木下に優勝を!」息詰まるデッドヒートを繰り返して、先に下マーク回航した。「やった/ピンだ!!」……?。まただー!得意のリコールトップをこの大事なところでまたやってしまった。2位でフィニッシュしたリュウターに勝利のホーンが鳴り響いていた。ドラマの主人公は熱気闘志を持ち、それでいてク

ールガイ、関東学院大の大石隆太郎に輝いた。
3人がかりで、襲いかかる明治軍団に1人で立ち向かった男リュウター。彼は安定した航速にうまさも加わり、本当に速かった。おめでとう!そして素晴らしい戦いを繰り返した学連戦士達/今度は春の団体戦でファイトだ!!

お明大トリオを相手に回して、学生チャンピオン獲得は見事。おめでとう。大石君。



全日本学生ボードセイリング選手権'97 (男子)

氏名	所属	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	総合点 (out)
		3-4 %	2-3 %	7-9 %	8-11 %	7-9 %	10-13 %	3-4 %	3-4 %	3-4 %	
1	大石 隆太郎 (関東学院)	0.7	6	0.7	2	2	2	12	3	0.7	17.1
2	木下 賢 (明治)	6	5	3	0.7	0.7	0.7	3	0.7	5	15.8
3	安藤 大輔 (明治)	14	11	5	4	4	7	2	2	3	38.0
4	高宮 大輔 (明治)	3	4	14	9	8	31	0.7	4	112	83.7
5	川名 泰正 (伊豆学院)	6	7	7	15	5	18	5	9	13	67.0
6	奥田 肇一 (同志社)	25	3	4	6	12	5	55	20	10	85.0
7	田中 哲史 (明治)	9	24	12	14	11	9	112	5	4	86.0
8	高橋 賢治 (明治)	2	2	30	23	25	23	6	8	2	83.0
9	石橋 貴介 (甲南)	51	30	2	20	10	15	7	17	6	107
10	八尋 裕一 (関東学院)	16	22	40	19	18	20	4	16	8	121

11 一九太孝(早稲田) 12 水田英一(京都) 13 大本隆介(関東学院) 14 山下岳雄(琉球)
15 吉村健二(同志社) 16 渡辺史紀(関東学院) 17 横矢博史(京都) 18 太田慎治(神奈川)
19 浜崎正正(京都) 20 藤崎浩人(甲南) 21 森本 輝(日本福祉) 22 新井博樹(明治)



レディスも強し! 関東学院

レディスクラスは全風域で8レースが成立。優勝の私(小管)は8レース中7レースでトップフィニッシュと安定した走りです。昨年に続いての2連覇達成。2位の堀川もほとんどのレースで2位、第6・7レースではトップを奪い、関東学院の1・2位独占となった。3位に入った直屋の三森は九州学連で多くの大会に積極的に参戦し、実力をつけてきた女の子。彼女をはじめとする九州勢の活躍ぶりは気になるところだ。

今回はレディスクラスでは珍しく強風域でのレースが行われ、日通中風域までしかレースを行うことのない学連レディスにとっては貴重な大会となった。強・中風が得意な選手は多いが、強風に強い人はまだまだ少ないのが実状。平成10年に行なわれる三浦のユニバーを目指すなら強風域の強化は絶対に必要になる。今回成長しているなと思った選手も何人かいたので、今後ぜひがんばってほしい。(REPORT/小管寧子)

氏名	所属	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	順位
1 小管寧子	関東学院	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	1.9
2 堀川智江	関東学院	2	4	2	2	2	0.7	0.7	2	2	13.4
3 三森結聖	直屋	15	3	3	4	4	6	10	4	3	37.0
4 佐藤友紀	京都	6	2	5	7	5	9	5	10	4	43.0
5 村田真紀	中央女子	11	15	8	9	3	3	6	3	9	50.0
6 元重舞子	中央女子	13	18	7	3	6	7	8	6	7	50.0



【4年関ライバルとしてやってきたヤスコに最後まで勝てなかったのは悔しかったけど、彼女からピンを2本取れたこと、そして一緒に表彰台に立てたことが嬉しかった」という関東学院・堀川。同じ大学で、お互い負きライバルとして戦ってきた2人の1・2位独占となった。



2連覇達成、小管寧子の

インカレのくやし〜い思い出

みんな、
まだまだね



インカレは学連に所属している人なら誰もが目指す大会。私自身も学生最後のレースとして、今年の大きな目標としてきました。結果としてインカレ2連覇という学連最後の目標を達成できて、ほんとに嬉しいです。初めて参加した2年の時のインカレでは、オクマのタクティカルな海面に悩まされて9位。かなり悔しい思いをした事を今でもはっきり覚えてます。新人戦で優勝した時に勝てた子にも負けてしまって、今までウインドしてきた中で一番悔しかったって言ってもいいくらい。それが私のその後のパネになったのかもしれませんが、私はこれからもONE DESIGNでのレースを続けていくつもり。女の子は特に4年生になるとウインドをやめてしまう人が多いけど、最後まで仲間と一緒にウインドを楽しんでほしいです。

インカレを制す者はウインドを制す!?

歴代インカレ優勝校&OB・OG

年度	氏名(大学名)	年度	氏名(大学名)
1977	石渡 京彦(拓殖)	1987	寺前 勝巳(甲南)
1978	平尾 幸広(拓殖)	1988	名取 俊昭(上智)
1979	野田 善生(拓殖)	1989	蜂谷 修(神戸)
1980	堀田 俊男(早稲田)	1990	藤内 健太郎(明治)
1981	大久保 直人(拓殖)	1991	大岡 哲(明治)
1982	佐藤 雅(拓殖)	1992	奥田 武博(神戸)
1983	三浦 福行(拓殖)	1993	瀬川 雅昭(甲南)
1984	野倉 修(神奈川)	1994	井上 隆郎(早稲田)
1985	大塚 尚(拓殖)	1995	木下 真(明治)
1986	新井 一之(中央)	1996	大石 博太郎(関東学院)

これはメンズの優勝者のみだが、他にも若岩厚・牧野秀紀などプロで活躍する人の名もちらほら見られたり、実業団でレースを続けている人、ワンデザインでアジア、さらにはオリンピックを目指している人も多い。こうやって見ると、日本のレースシーンを支えている人には学連出身者が多いのね、と改めて思われる。さらに、WSFのメーカーに入ったり、大会等の運営をしたり、とウインド業界を裏から支えている人も結構いるのだ。現役学連諸君、君は卒業後どうする?

学連の実態は…?

加盟校: 75校
加盟人数: 約650名



JAPAN UNIVERSITY BOARDSAILING FEDERATION

現在、学連に登録し、セイルナンバーを持っている大学は75校(このうち休部中で活動していない学校も結構あるらしいが…)。加盟している人数はおおよそ650人。加盟校の中でも関東学院、桜美林、明治などは体育会の指定を受けていて、学校側からも金銭面などで援助を受けている。また、桜美林、拓殖などではウインドでの推薦入学が実施されており、来年度初めてウインド入学を実施する関東学院には、ユースでメキメキ実力をつけている高木未散が入るとのこと。関東学院、また強くなってしまおうか…?

インカレ勢力分布図

今回のインカレに参加したのは、最北の北海道大学から最南の琉球大学まで全部で36校、141名。内訳は開催地の地元沖縄、琉球大が13人、関東学院・明治・同志社・京都と関東/関西の強豪がそれぞれ12人、これに続くのが早稲田の7人、後の順位は下のグラフの通り。強いと言われる学校はやっぱり選手層が厚いのがよく分かる。大学としては1人しか出ていなくても、ホームグラウンドで見れば、練習、選手、諸君などがやっぱり多く、強い学校と一緒に練習できることがプラスになっている様子。しかし北大は5人も出てるけど、冬場はどうやってトレーニングしてるのだろう? 北大の君、冬場の練習レポート待ってるぞ。



ヤスコも注目/ 学連レディス成長株



佐藤友紀 (京都大学)
「自分にとって総決算のレースなので緊張した」という3年生。来年が楽しみ、と言いたいところだが、大学院に進むので勉強に励むとか、残念!

村田真紀・元重舞子 (中央女子大学)

機・中風域では目を見張る艇速を持つ村田。そして2年生ながら6位入賞の元重。メキメキ成長している中央女子には今後の期待も大。



私だって インカレ 優勝経験者! J-24 松永みどり



1982・83年度レディスクラス優勝、84年度2位。と輝かしいインカレ戦歴を持つ松永みどりプロは現在もジャパンサーキット等で活躍中。「みんな練習したり、遠征したり、レースを口実に飲みに行ったり。レースで勝てば先輩達もすごく喜んでくれるし、自分も伸び盛りの時から練習すればするほど成果が出て、とにかく楽しかった」と学連時代を振り返る。今の松永みどりがあるのも学連時代にレースの楽しさを知ったから、というわけだ。